

台風 27 号に伴う出水と日吉^{ひよし}ダムの防災操作について

淀川水系桂川の水資源機構日吉^{みずしげん きこう ひよし}ダム（南丹市日吉^{なんたんし ひよしちよう}町）流域では、台風 27 号の降雨により、10 月 24 日 15 時から 26 日 6 時までの総雨量が 120 mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒 264 立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムでは防災操作を実施し、ダム下流の洪水被害軽減に努めました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の情報は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成 25 年 10 月 28 日

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

台風27号に伴う出水と日吉^{ひよし}ダムの防災操作について

台風27号に伴う降雨により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、10月25日8時から9時までの1時間の雨量が最大14mmを記録し、降り始めの10月24日15時から26日6時までの総雨量は120mmに達しました。

この降雨により、流入量が増加し、25日11時03分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

25日13時53分には流入量が最大（毎秒約264立方メートル）となりました。同時刻のダム流下量は毎秒約148立方メートルであり、日吉ダムで毎秒約116立方メートルの貯留を行い、下流の河川へ流す水量を約4割低減しました。

防災操作の概要

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダム流下量	同時刻における ダム貯留量
日吉 ダム	120mm	平成25年10月25日 13時53分	毎秒264m ³	毎秒148m ³	毎秒116m ³

ダム下流の保津橋^{ほつばし}地点（^{かめおかしほつちようしもなかじま}亀岡市保津町下中島地先）では、日吉ダムの防災操作により、ダムが無い場合に比べて河川水位を約0.3m低下したと推定され、ダム下流河川の水位低下に貢献できたものと考えられます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合 の同地点の最高水位	水位低減効果
平成25年10月25日 16時20分	2.56m	2.87m	0.31m

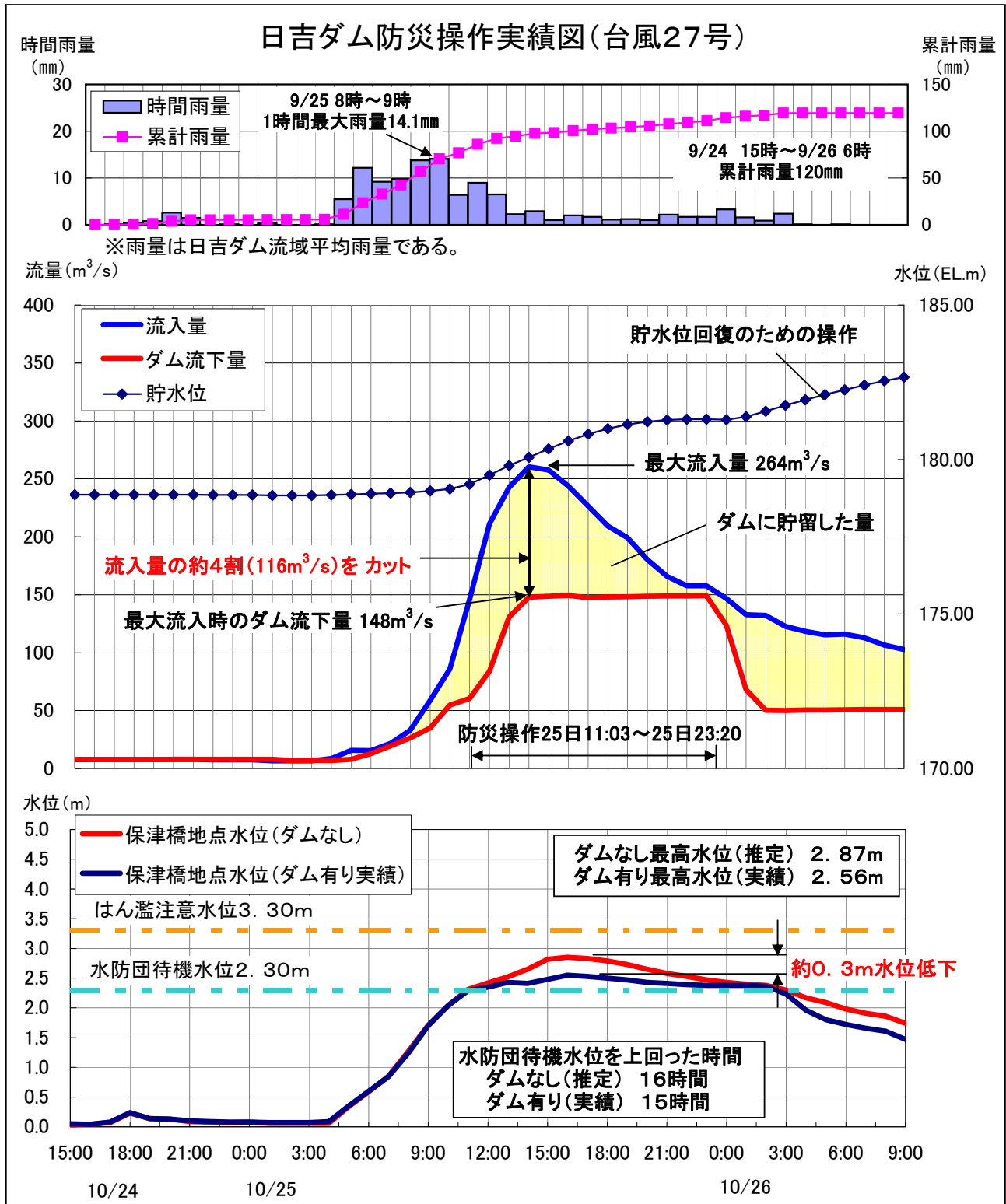
日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

位置図



台風27号に伴う出水と日吉ダムの防災操作について

・管理開始(平成10年4月)以降23回目、今年2回目の防災操作を実施



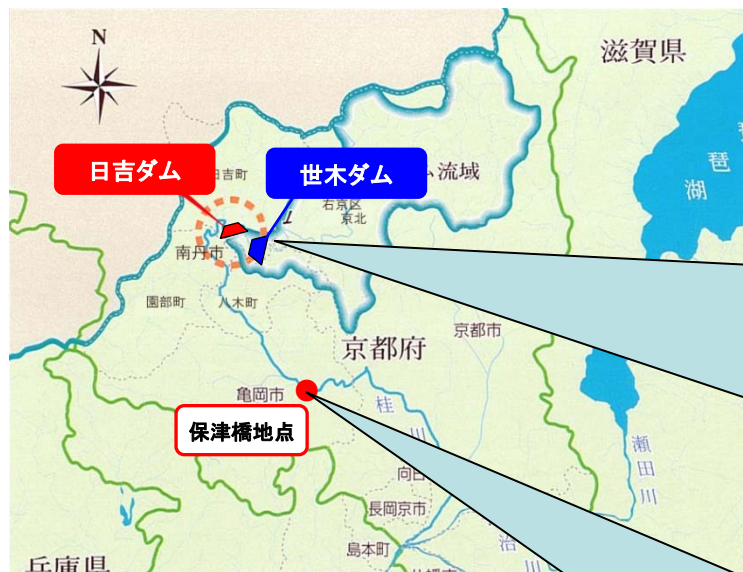
管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	最大流入時のダム流下量 [m ³ /s]	最大流入時の貯留量 [m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546
2	平成16年10月 台風23号	238	856	148	708
3	平成22年 7月 梅雨前線	170	698	149	549
16	平成25年10月 台風27号	120	264	148	116

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量大きい方から3番目までと今回を記載しています。

ひよし 日吉ダムの防災操作の効果について（平成25年10月）台風27号

- 台風27号により、淀川水系桂川の日吉ダム流域では、1時間雨量で最大14mm、降り始めからの総雨量は120mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒約264立方メートルを記録しました。
- 日吉ダムでは、最大流入時に毎秒約116立方メートルの水をダムに貯留し、下流の河川へ流す水量を約4割低減しました。
- この結果、ダム下流の保津橋地点（保津川下り乗船場付近）では、河川水位を約0.3m低く抑える効果があったと推定され、ダム下流河川の水位低下に貢献できたものと考えられます。 ※数値は速報値



■ 防災操作による貯留開始から洪水警戒体制の解除までの間において、京セラドーム大阪約3杯分(329万 m^3)に相当する水を日吉ダムに溜め込みました。
(京セラドーム大阪の容量を120万 m^3 として算出)



保津橋地点(保津川下り乗船場付近)での水位低下効果

